

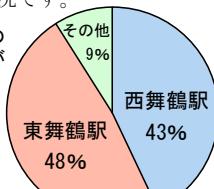
### 1-1-③ 舞鶴市民の移動手段/公共交通

※出典：舞鶴市地域公共交通計画(令3)

#### ■ 利用の多い鉄道駅と

- ・鉄道駅利用は、西舞鶴駅が43%、東舞鶴駅が48%を占めている。
- ・両駅までの主な交通手段は、家族による自動車送迎を含めると、自動車利用が全体の56%を占めており、鉄道駅へのアクセスも自動車に依存している状況です。

鉄道駅の駐車場が大切に！



#### □図書館計画にとっても重要な地域公共交通計画

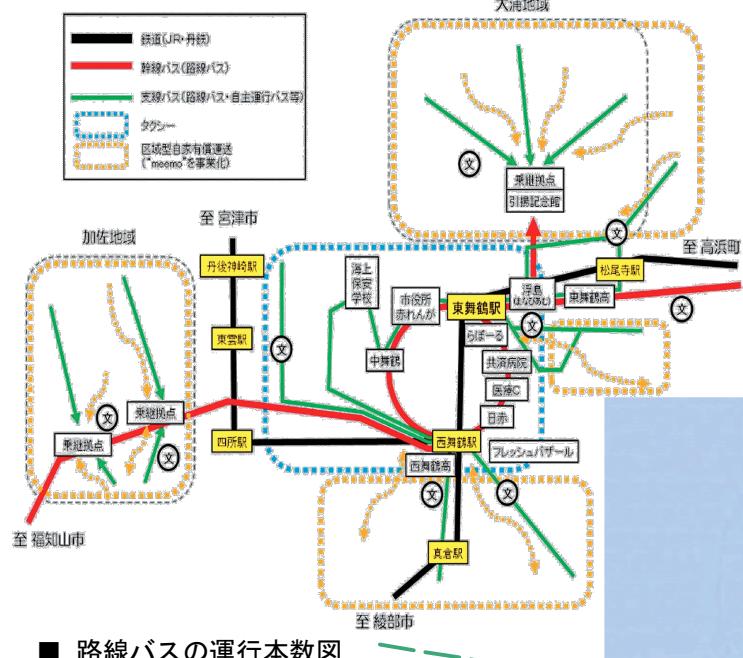
市域全体にいる市民にとって、図書館が至便にアクセスできる位置にあるかは重要です。

#### □交通サービスの地域格差と明らかにされている将来整備の方向性

<現状> バス路線網は、東・西の市街地を中心に形成されており、幹線道路ほどバスの運行本数が充実しています。一方でバスの運行がない地域もあります。(バス運行本数図)また、市民アンケート調査によると、現在の公共交通(路線バスなど)のサービス内容に對して改善を求める声が多くあがっています。特に、運行ダイヤや運賃割引制度の充実、バス停の快適性などが求められています。

<課題> 地域によって、交通サービスの格差が生じています。それぞれの地域特性や住民の移動特性に応じて、交通サービスのあり方を考える必要があります。

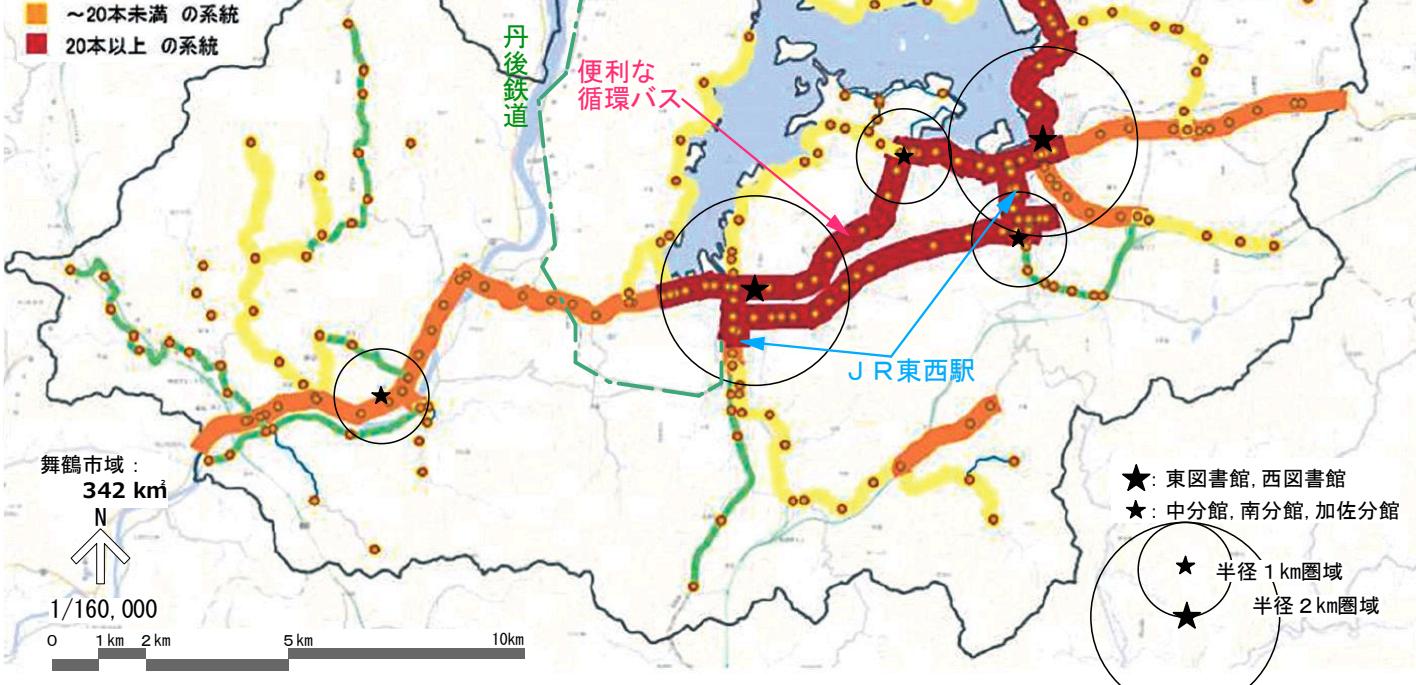
#### ■ 舞鶴市が目指す公共交通ネットワーク体系図



#### ■ 路線バスの運行本数図

系統別本数

- ~3本未満 の系統
- ~5本未満 の系統
- ~10本未満 の系統
- ~20本未満 の系統
- 20本以上 の系統



#### 【バス路線別の評価】 <鉄道利用者の内訳>

※年に1~2回程度以上の利用が対象

<総合的な評価>  
・東西循環線を除いて、ほとんどの路線バスにおいて、総合的な評価が低い傾向です。

#### <運行状況について>

- ・「1日の運行本数」は、ほとんどの路線において低い評価であり、特に郊外への路線ほど不満を抱いている状況です。
- ・「始発時刻」「終発時刻」「鉄道との乗り継ぎ利便性」「別バス路線との乗継ぎ利便性」は、中心地の路線は他路線に比べて評価が良い傾向にある一方、郊外への路線ほど不満を抱いている状況。

#### <車両、停留所環境について>

- ・「バス停留所の快適性」は、ほとんどの路線で低い傾向です。

#### <中心地アクセス性>

- ・JR西舞鶴駅、東舞鶴駅ともに評価に大きな違いはみられず、東西循環線と一部の路線を除いて不満を抱く人が多い傾向です。自主運行バスの岡田上、岡田中バスは評価が低い傾向です。

※出典「舞鶴市地域交通計画」  
令和3年

### □自動車中心の生活習慣をふまえた地域サービス計画が必要です

現状の通勤通学は68%が自動車利用、公共交通利用者は14%に過ぎません。郊外の公共交通の利便性、世帯人数低下と送迎、高齢者の免許返納増加が、今後の地域課題です。

### □地域公共交通の利便性格差を解消する再整備も課題となっています

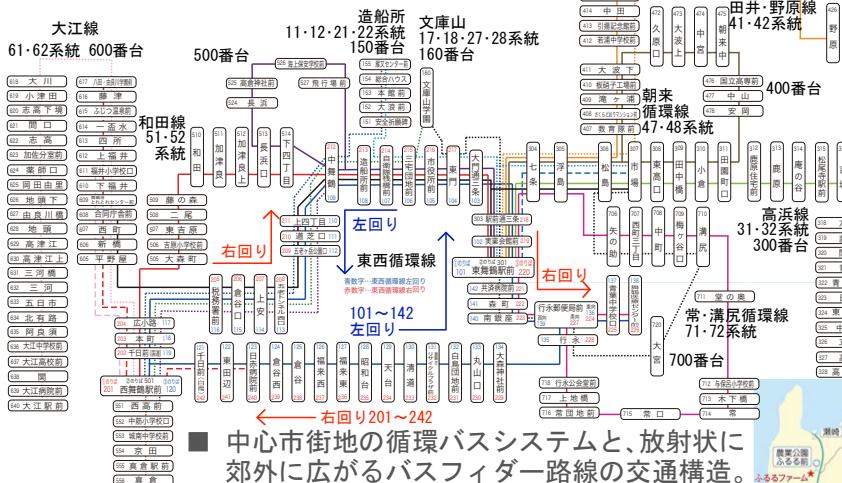
令和3年「舞鶴市地域交通計画」では、公共交通再整備の方向性が示されました。(右図式) 中心市街地へのアクセス性の向上方針が示されています。

### □地域拠点には地域公共交通システムが張り巡らされています

郊外部のバス運行回数は少なく料金が高いことが指摘され、利用率低迷の循環状況にある。図書館アトリーチサービス計画の視点からは、これらの交通拠点近くに出掛ける方策があります。

### □中心市街地(中央図書館)へのアクセス性向上が求められています

全市郊外地域の人々にとっては、身近なサービス拠点とともにセンターへのアクセス性が利用の必要条件です。JR東・西舞鶴駅の交通結節点としての高い求心性は確認されています。交通利便性から見た中央図書館の適地性は、①中心市街地の地域公共交通(鉄道・バス)の結節点・焦点がふさわしい。②幹線的道路に直結して明快で、駐車場渋滞が起きない周辺道路状況がよい。③充分な駐車場用地がとれ、災害や水害でサービスやアクセスが破断しない。などが求められ、交通計画との協調が図書館計画に必要です。



■ 中心市街地の循環バスシステムと、放射状に郊外に広がるバスフィダ一路線の交通構造。

### ■ 東西2駅の「二極連担的な中心」性は歴史的環境構造。 バス路線と骨格道路の結節点が地域環境の焦点となる。

#### ●駅乗降客数(H28)/年

JR 真倉 : 9,000

東舞鶴 : 551,000

西舞鶴 : 531,000

松尾寺 : 17,000

京丹後鉄道

西舞鶴 : 146,000

四所 : 10,000

東雲 : 5,000

丹後神崎 : 6,000

#### ●IC通過台数(R元)/年

出典:統計資料

●観光入込客数247万人/年(R1)  
車利用来街が多い。



### 舞鶴市地域公共交通計画の基本理念と公共交通のあり方

#### 市民の求める公共交通の役割

- ・子ども、学生、高齢者、免許を持たない人が出かけるための移動手段
- ・将来、運転免許証を返納したときの移動手段
- ・市民の買物や通院のための移動手段
- ・いつでも利用できる安心感

↓ 今後とも舞鶴市にとって公共交通は必要

#### 基本理念

公共交通を将来にわたり維持し活用する

↓ 舞鶴市にとっての公共交通のるべき姿

#### 公共交通のあり方

舞鶴市第7次総合計画における  
5つの【目指すべき将来のまちの姿】の実現に寄与

##### ①便利な田舎暮らしができるまち

- ・公共交通のサービス水準の底上げを図り、生活の質の向上を図る。
- ・舞鶴版コンパクトシティの形成を目指す。

##### ②市民(事業所)が元気なまち

- ・どこへでも外出できる環境を確保する。

##### ③住み続けたいと思えるまち、人が集う魅力あるまち

- ・市民の安心のため、これからも公共交通を維持する。
- ・来訪者にとっても移動しやすい環境づくりを行う。

##### ④新たな技術を導入した未来型のスマートなまち

- ・先端技術を積極的に取り入れ、市民にとって利便性の高い移動手段の提供を目指す。

##### ⑤多様な連携のもと、持てる資源を効果的に活用するまち

- ・今ある経営資源を最大限有効活用することにより、公共交通の強みを活かした利便性の向上を図る。
- ・市民のアイデアなどを交通施策に活かす。

## 1-1-④ 公共公益施設/商業分布とくらし

### □集会施設（公民館等）

#### ＜施設の特性＞

- ・同様のサービスを提供する施設には、コミュニティセンター（10か所）、社会福祉施設（6か所）などがあるため、利用率は高いとはいえず、需要に比べて施設量はやや多くなっています。

#### ＜施設別評価の概要＞

- ・中央公民館を除けば、建物状況の評価が低いものの他の評価が高い施設と、建物が健全であるものの利用が少ない施設に分かれています。

#### ＜市民の意見＞

- ・公民館に、図書館の本の返却場所としての機能を持たせることや、ファックスをはじめ様々な方法で予約ができるよう求める意見、さらに、貸し室については、半日単位ではなく1時間単位での利用を可能にするべきとの意見や、利用料の値上げをするべきとの意見等がありました。

#### ＜再生計画における方向性＞

- ・公民館等は概ね中学校区単位で設置され、生涯学習や身近な地域のコミュニティ形成の核となる施設として地域に密着し、幅広い層に利用される施設です。
- ・いずれの施設も重要な機能・役割を有していることから、現機能を維持確保していくこととしますが、利用状況が低い施設については、その利用率を高めるサービス、工夫を施していく必要があります。

#### ◆ 取組の優先度⇒ 「3」 (R3:図書館基本計画で加筆修正)

- ◎南公民館は建物の耐震診断を行い、補強不要という判断でした。空調機も改修済みです。
- ◎東公民館は、令和3年に「まなびあむ」に機能統合されました。

### □公共公益施設の分布を知る



※出典：舞鶴市公共施設再生基本計画(H26)  
第3章 各施設の評価と再生の方向性  
舞鶴市公共施設マネジメント白書

### □図書館

#### ＜施設の特性＞

- ・図書、記録、資料などの収集・整理・保存を行い、市民の教養、調査研究などの場を提供することを主目的とする図書館は2施設あります。

- ・東西の2施設の比較では、施設規模・蔵書数・築年数・設備・利用状況・運営コストなど、いずれもほぼ同規模で、偏りが無い状況です。

#### ＜施設別評価の概要＞

- ・2施設はほぼ同じ程度の評価であり、いずれも建物・拠点性・利用は高い評価です。

#### ＜市民の意見＞

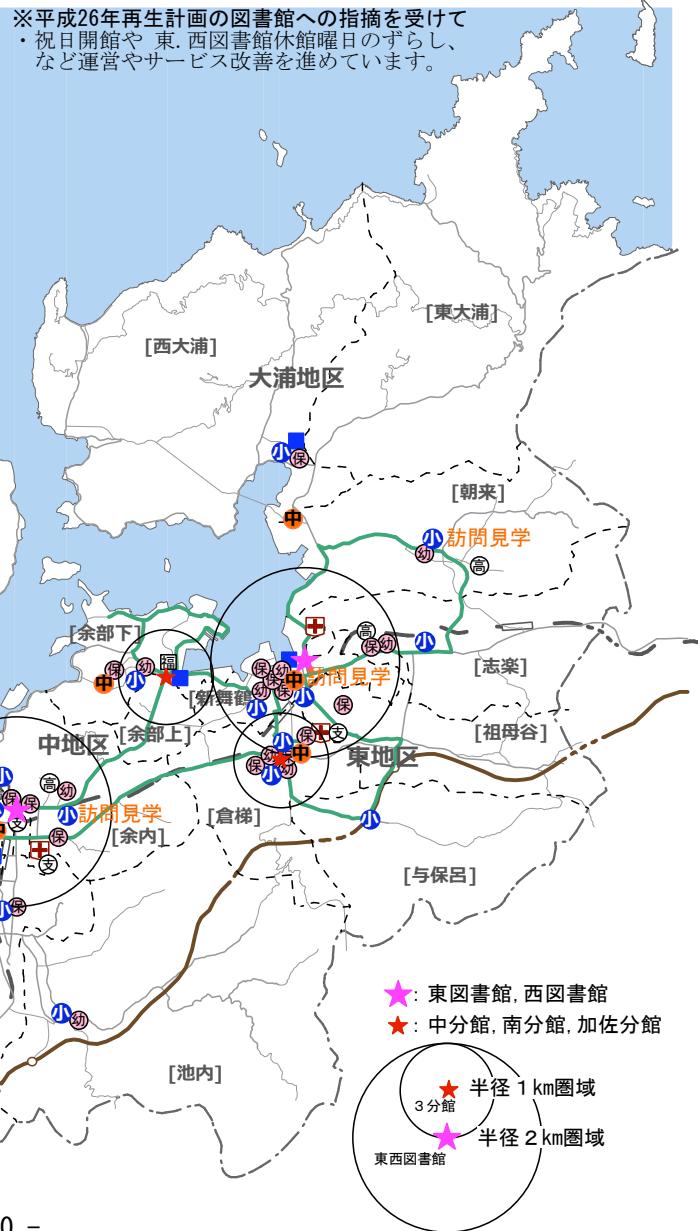
- ・図書館に対しての意見の大半は、休館日が多い、蔵書が少ない、駐車場が少ないといった、設備等の拡充を望む意見でした。
- ・一部では、東西に分かれているために規模が中途半端であるといった意見や、東と西で休館日をずらすべきといった意見、近くにある方が便利であるとの意見がありました。
- ・蔵書については、本市が軍港都市であった歴史の特色を強調した蔵書の収集を望む意見もありました。
- ・図書館施設は、建物状態、利用状況とも概ね良好と認められますが、同水準の施設が2つあることから、一つにして充実した機能をもたせる、あるいは、2つの施設を差別化（特色化）するなどの市民の声も少なくありません。

#### ＜再生計画における方向性＞

- ・同規模の自治体との比較では利用状況も平均以上であり、効率的にサービスを提供できていることから、東西での施設をそれぞれ存続し、利用促進と施設の長寿命化を図るとともに、より効率的な施設運営を図ることが望まれます。

#### ※平成26年再生計画の図書館への指摘を受けて

- ・祝日開館や東、西図書館休館曜日のずらし、など運営やサービス改善を進めています。



### 1-1-④ 公共公益施設/商業分布とくらし <中心市街地の地域拠点を確かめる>

中心市街地の東西図書館利用も、周辺環境や暮らしと関係づけられていると予測します。

□20年先も、東舞鶴、西舞鶴両駅を中心に公共公益・商業施設が集積しています  
全市民にとって中心市街地は求心性、集客性、象徴性を有する拠点地域です

- ・市内全域に居住する市民にとって、2極構造の中心市街地の中の中心性については、東と西の地区や、東西駅の界隈についても、甲乙をつけがたい状況にあります。
- ・新中央図書館の立地評価も、交通計画的には東と西の駅近であれば甲乙はつけがたい。

□この二極の中心地域は鉄道や循環バスで連結され、車移動も至近明快です  
交通移動手段の利便性向上がかなえば一体的に連担する地域と捉えられます

- ・中心市街地活性化の交通施策として、中心部循環バスの小型化ワンコイン運行や、乗り合いタクシーなど事例は全国に多く、舞鶴市でも実証実験と具体化の段階です。  
・ワンコインバス：浦安市一律100円。茅ヶ崎市一律150円。

□舞鶴市全域の図書館サービスシステムのセンター(中央図書館)の配置を構想するとき、東西両駅に近接する敷地があれば、交通計画上の適地になります

- ・公共交通や自動車での通勤や通学を日常とする青壮年の働き盛り世代にとって、一定数の駐車場規模を有するターミナル駅近くの中央図書館立地は魅力度が高い。

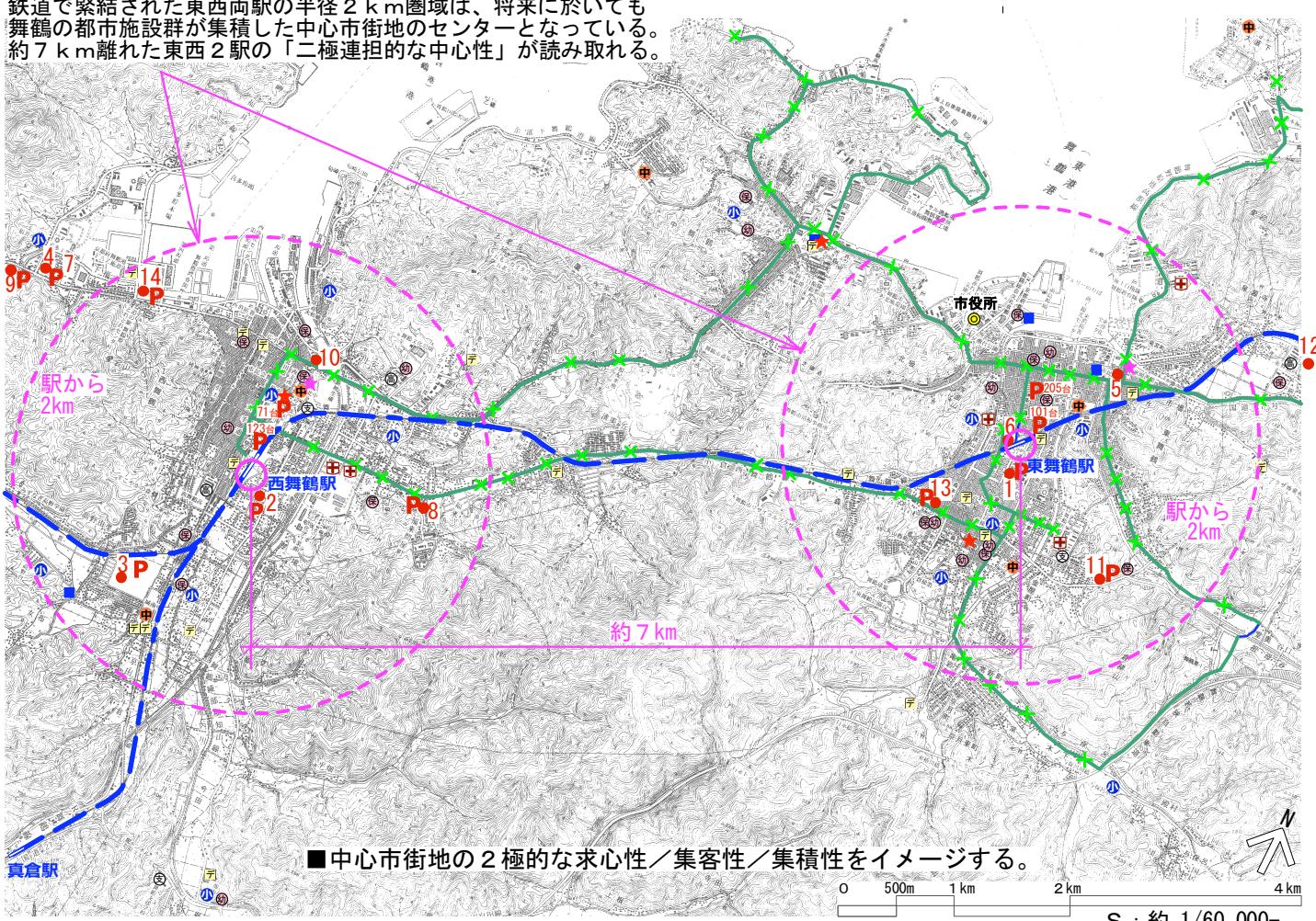
□郵便制度のような図書館サービスシステムのセンターとしての適地性評価は、図書館施設計画で整理され、これを基に検討され最適候補地が選定されます

- ・現状の小規模な東西の図書館機能が、全市サービスのセンターとして一箇所に集約され充実整備される方向性については、全市民的合意が得られると考えられます。

□中心部居住地域の図書館サービスは、最適でより有機的な組立てが必要です

- ・中心地域への図書館サービスは、新中央図書館や公民館分館での来館型サービス、小中学校や幼稚園保育園やデイサービス老健施設など拠点施設への訪問、その門前でのB.M.自動車図書館サービスで組み立てられると、先進地事例から考えられます。
- ・市役所行政図書室や、郷土資料館ほか社会教育施設群が、中心市街地で図書館とも連携して、市民により広く深い情報サービスの提供ができると考えられます。

鉄道で緊結された東西両駅の半径2km圏域は、将来に於いても舞鶴の都市施設群が集積した中心市街地のセンターとなっている。  
約7km離れた東西2駅の「二極連担的な中心性」が読み取れる。



## 1-1-⑤ 地域や町別に見た図書館の利用傾向

### □ 2 1の町住区ごとの「図書館登録率」と「ひとり年間貸出冊数」

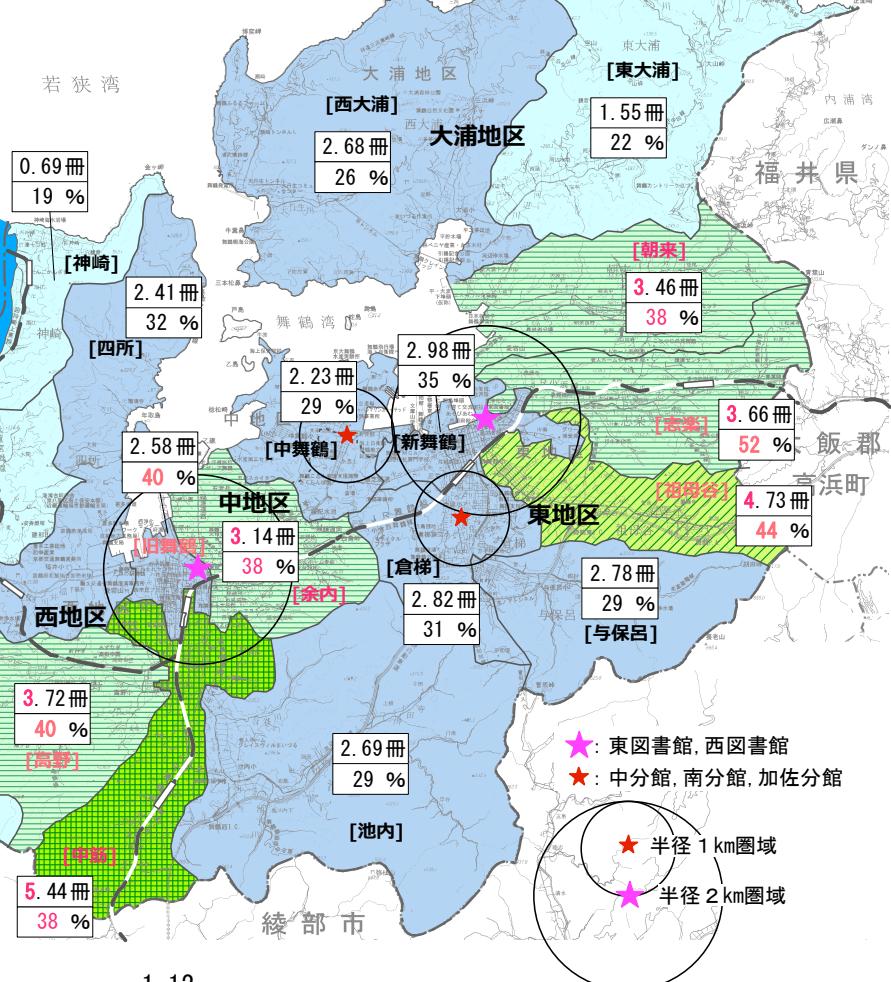
舞鶴市には、東西2極の中心市街地に対応して東西図書館が同等にサービスを展開しているものの、図書館に近く比較的利用の高い7町住区でも、市民一人年間貸出冊数は全国平均値を越えない状況が左表で読み取れます。

このサービス実績の経年的な停滞の原因を明らかにして、改善の方向性を計画することから考え始めます。現代の図書館サービスの3原則のひとつである「全域への奉仕」が充分に届いているか、ここで読み解きたいと考えます。

- 中心地東西2館への全市域からの来やすさ 対策は、不十分か？ それは、郊外部の町の登録率の低さに示されています。図書館配置、公共交通体系との不調和、駐車場台数の不足、など課題を補完する対応が不十分なのです。
- 全市分館や東西2館の市民的魅力度、誘客力は成長しているか？ それは全市民貸出密度、館に近い町でも全国平均以下、に示されます。施設環境、資料の量と新鮮さ、サービスの専門性信頼度など課題への対応が求められます。

- 中心地東西2館からのアトリーチャービスは体系化しているか？ 特定の学校やリクエスト対応だけでなく、利用率や貸出密度が低い町々につながりサービスを届ける仕組みが体系化されているかが統計値の経年成長に現れます。

利用統計の町々別への掘下げは、舞鶴市の図書館のいまと施策の課題を、如実に浮かび上がらせています。



東・西図書館					
地域	地域人口 (人)	貸出冊数 (冊)	人口一人 当たりの 貸出冊数 3冊↑赤字	登録者数 (人)	登録率 38%↑赤字
東大浦	753	1,169	1.55	164	22%
西大浦	1,120	3,005	2.68	286	26%
朝来	2,667	9,219	3.46	1,009	38%
志楽	5,299	19,419	3.66	2,751	52%
与保呂	2,723	7,569	2.78	789	29%
倉梯	13,692	38,558	2.82	4,303	31%
祖母谷	4,042	19,126	4.73	1,793	44%
新舞鶴	8,617	25,669	2.98	3,048	35%
中舞鶴	7,427	16,543	2.23	2,190	29%
旧舞鶴	8,091	20,858	2.58	3,240	40%
余内	7,642	24,006	3.14	2,866	38%
四所	2,434	5,855	2.41	780	32%
高野	2,851	10,611	3.72	1,129	40%
中筋	8,754	47,628	5.44	3,293	38%
池内	1,389	3,730	2.69	401	29%
岡田上	612	665	1.09	85	14%
岡田中	524	531	1.01	108	21%
岡田下	767	777	1.01	139	18%
八雲	1,082	1,248	1.15	257	24%
神崎	471	324	0.69	91	19%
市内計	80,957	256,510	3.17	28,722	35%
市外計		1,324		385	
合計		257,834		29,107	

人口1人1年間当たりの貸出冊数  
※国民1人1年間当たりの貸出冊数は、  
2016年：5.5冊、2021年：4.3冊

2016年 全国平均

2021年 全国平均

やや低調

低調

低調

1冊以上

